

令和5年度 連携交流事業
第4回ビジネス交流会 実施計画書(案)

- 1 主旨・目的 テーマ別にビジネス交流会を開催し、中小企業事業者・大学関係者等が産学連携や産産連携による新事業創出へ取り組む契機とする。
(R5 事業計画書 抜粋)
高齢化社会を迎え、認知症の人数は増加の一途を辿っており、2025年には700万人に達すると推定されている。コロナ前の日常が徐々に戻つつある中で、改めて現場の声を傾聴しつつ、介護関連機器の開発を推し進めていく必要がある。
本ビジネス交流会では、全員参画型開発(コ・デザイン)を用いた製品開発活動を紹介し、大学等研究者・介護事業者・製品開発事業者らによる情報交換の機会を設け、産学連携による新規開発、介護現場の課題解決の機運を高める場とする。
- 2 テーマ 「介護支援機器開発はコ・デザインで実現！
ニーズの発掘から設計、社会実装まで全員参加での製品開発」
- 3 実施内容 ● 講演の部
(1) 基調講演1《30分》
「コ・デザインの事例等(仮題)」
松本 有 氏/株式会社フォルム 代表取締役社長
(2) 基調講演2《30分》
「テーマ1」
尾林 和子 氏(仮) /
(3) 講演1《15分》
「テーマ2」
飯塚 徹 氏(仮) /
(4) 講演2《15分》
「テーマ3」
岡田 忍 氏(仮) /
(5) 講演3《15分》
「テーマ4」
高橋 あかね 氏(仮) /
(5) 講演4《15分》
「テーマ5」
中山 氏(仮) /
● ポスターセッションの部《90分》
(実施方法) 会場内に各発表者(9者)のポスター等を掲示し、来場者は予め入手した「ポスターセッションプログラム」(仮称)をもとに、関心を寄せる発表者のもとへ赴き、掲示内容について説明を受けるとともに、相互及び来場者同士の意見交換を行う。

(ポスター説明者)

【基礎調査委員会】		
①	澤田 幸穂 氏	千葉大学大学院看護学研究科 「見守りベッドセンサーから高齢患者の生体情報を得る」
②	石坂 晴奈 氏	千葉大学大学院看護学研究科 「知識構造化が拓く認知症ケア」
③	谷 秀 氏	生活クラブ風の村グループホーム作草部 管理者 「非接触型睡眠計の活用の実際」
【研究開発委員会】		
④	松戸 圭子 氏	株式会社アトリエPOSY 代表取締役 「植物パズルによる認知症リハビリテーション」(仮)
⑤	木村 八恵 氏	千葉大学大学院看護学研究科 「接触検知センサの臨床における予備的検討」
⑥	松下 光次郎 氏	岐阜大学工学部機械工学科 准教授 「豊富な医工連携・研究経験に基づく大学ベンチャー発展への挑戦 ～筋電義手・歩行補助・BMI・手指リハビリ・3DVRリハビリ・IoT運動w評価～」
【ビジネス委員会】		
⑦	小粥 将直 氏	株式会社D&Pメディア 代表取締役 「「みんなの見えるを実現」みんなの配慮による介護へのアプローチ」
⑧	物部 長智 氏	株式会社モノベエンジニアリング 取締役社長 「災害止水時に飲料・生活用水を提供する BCP 対策ろ過装置の提供」
⑨	西村 藍花氏	東京海上日動火災保険株式会社 千葉支社 営業課 主任 「DXにおけるサイバーリスク」

- 4 日 程 令和6年3月5日(火) 午後1時～午後4時50分
《講演の部》 13:00～15:10
《ポスターセッションの部》 15:20～16:50
- 5 会 場 千葉大学工学系総合研究棟2 2F「コンファレンスルーム」
(千葉市稲毛区弥生町1-33 千葉大学西千葉キャンパス内)
- 6 対 象 者 介護支援機器事業や産学連携に関心のある市内中小企業者、介護施設関係者、認知症介護看護研究者 ほか50名程度
- 7 参 加 費 無料
- 8 主 催 等 [主催] 公益財団法人千葉市産業振興財団
[共催] 千葉大学大学院看護学研究科、千葉大学フロンティア工学センター、千葉大学学術研究・イノベーション推進機構
[協力] 特定非営利活動法人認知症介護イノベーションコンソシアム CHIBA
- 9 問 合 せ 等 公益財団法人千葉市産業振興財団 産業創造課(吉岡・藤島)
電話 043-201-9504 / MAIL sangyoso@chibashi-sangyo.or.jp

付帯検討事項

- 1) 特別講演者の謝金について。
依頼者が日程、謝金に関し講演者と調整→基準額は交通費及び源泉徴収を含めて1時間で1万円(30分なら5千円)
依頼者が財団謝金で対応できない場合は、大学側の謝金支払いもあるので加算もできる。
→要確認
- 2) 会場の利用料については共催であれば無料。→要確認
- 3) 会場の現場視察を行うか。
- 4) ポスターセッション参加者は謝金の支払いはしない。
- 5) 委員会講演者の講演時間は15分のため、謝金を出すとすると、非常に低額になることを依頼者は事前に説明する。
- 6) 講演者やポスターセッションの参加者は今年中に確定したい。

以上